

はじめに

本書は、2013年10月4日に北海道大学学術交流会館で開催された国立大学附置研究所・センター長会議第3部会シンポジウム「比較研究の愉しみ」の記録である。附置研・センター長会議は、全国の国立大学に附置された研究所・センターが相互に連携・協力することにより学術研究の振興に寄与することを目的とする組織で、3つの部会のうち第3部会は、人文・社会科学系の14の研究所・センターで構成されている。2013年度は、北海道大学スラブ研究センターが部会長校兼シンポジウム当番機関として、部会の会議および公開シンポジウムの企画・運営を行った。

第3部会の研究所・センターの活動の中では地域研究が大きな比重を占めているが、2008～2012年度にスラブ研究センターを拠点として実施された新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」が体現したように、ある地域の個性をより深く理解するためにも、世界全体の構造を把握するためにも、地域間の比較研究が重要であるという認識が近年広まってきている。そこで、このシンポジウムでは、部会構成組織の中で比較研究に関わる共同研究・個人研究を行っている研究者4名に報告とコメントをお願いし、比較研究の最新の成果を語り合っていたくことにした。いずれも世界的な視野と地域に密着した知見を兼ね備えた、知的刺激に富む報告・コメントで、議論も盛り上がり、計63名の参加者は熱心に聞き入っていた。

近年、大学改革の動きが激しくなる中、全国的・世界的な共同研究を先導する研究所・センター間の協力を深めるため、附置研・センター長会議は活動を活性化させている。政策的な注目はともすれば理系の研究に集まりがちだが、文系の研究所・センターは、人類社会に関する多面的な研究を基礎としながら、国内外での各種政策提言や歴史認識の深化など、日本という国の国際社会における調和と競争力の向上に直結する活動を行っており、その意義に対する政府や一般社会の認識を高めるため、第3部会の活動はますます重要になっていくと思われる。本シンポジウムが、文系の研究所・センターの連携強化と広報のため、そして地域研究・比較研究の発展のために多少なりとも貢献できたなら幸いである。

本報告書は、シンポジウムの音声記録をもとにした原稿を若干手直し、報告者・コメントーターにチェックしていただいたものである。脚注は編者が作成した。

シンポジウムを開催する機会と費用を提供してくださった国立大学附置研究所・センター長会議と、大変多忙な中で充実した報告・コメントをしてくださった先生方、そしてシンポジウムの開催と報告集の編集のサポートに当たられた後藤正憲助教をはじめとするスラブ研究センター・スタッフに、心から感謝申し上げたい。

2014年1月

北海道大学スラブ研究センター長
宇山 智彦

比較研究の 愉しみ

国立大学附置研究所・
センター長会議第3部会シンポジウム

2013年

参加無料
10月4日(金)

13時～15時40分

会場：北海道大学学術交流会館小講堂

国立大学附置研究所・センター長会議第3部会に集まる人文・社会科学系の研究所・センターの研究の中では、地域研究（外国研究）が大きな比重を占めています。一つの国や地域を深く研究することが地域研究者の主な仕事ですが、中に入り込み過ぎると、その地域の独自性や他地域との共通性が見えにくくなる場合があります。そこで有効なのが比較研究です。このシンポジウムではさまざまな分野で比較研究の第一線で活躍する研究者を集め、地域間比較によって何が見えてくるのか、その醍醐味や意外性を語り合います。

報告

藤原 辰史 京都大学人文科学研究所
「第一次世界大戦の共同研究——その比較史的課題」

黒木 英充 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
「地域を股にかけける人々を比較して
——レバノン・シリア移民研究の地平」

田畑 伸一郎 北海道大学スラブ研究センター
「ロシアと中国とインドの経済を比較したら
何が分かったか？」

コメント

林 行夫 京都大学地域研究統合情報センター



北海道大学 スラブ研究センター

<http://src.h.slav.hokudai.ac.jp/>

〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目

TEL 011-716-2111 (代表) 011-706-2388 (直通)

FAX 011-706-4952